

ノロウイルスなどの 感染性胃腸炎にご注意を

例年11月～3月は、ノロウイルスに代表される感染性胃腸炎が多発する時期です。
特にノロウイルスは感染力が強く、次のような経路で感染します。

ウイルスに汚染されていた二枚貝類を生あるいは十分に加熱しない状態での喫食による感染

感染した人の不十分な手洗いで調理による食品を介しての感染

感染した患者の嘔吐物や糞便で汚染された人の手などを介しての感染



感染性胃腸炎とは

一つの病気をあらわすものではなく、ウイルスや細菌など様々な病原体を原因とする嘔吐、下痢、腹痛などの胃腸症状を主体とする病気のことです。おおむね11～2月はノロウイルス、3～4月はロタウイルスが原因と考えられます。

症状は

- 感染もしくは汚染された食品を摂食1～2日後に吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状が出現します。
- 主な症状は3日程度で回復しますが、高齢者や乳幼児では脱水症状などから重症化する場合があります。
- ウイルスの排泄は数週間続く場合があります。

感染防止方法は

- 手洗い・うがいは予防の基本です(特に調理前やトイレの後など)
- カキなどの二枚貝はなるべく、生食を避け、加熱して食べましょう
- 食品を加熱する際は、食品の中心部まで十分に加熱調理しましょう



下痢や嘔吐のある患者に接する際の注意点

- こまめに流水、石鹸で手を洗いましょう
- 患者が嘔吐した部屋は、立ち入る人を最小限とし、換気をしてください
- ドアノブやじゅうたん等からもウイルスが検出されます。ウイルスを死滅させるためには次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤等)によるふき取りや熱湯・熱風消毒(85℃で1分以上)が有効です(逆性石鹸、消毒用アルコールは効果が不十分です)
- 汚物が付着した床などは、迅速に汚物を十分に取り去ってから、次亜塩素酸ナトリウムでふき上げましょう
- 嘔吐物や糞便を処理する時は使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用のうえ処理しましょう